

| 今月の経済動向（平成27年2月）

● 月例経済報告/金融経済月報

	月例経済報告（内閣府・2月19日）	変化*	金融経済月報（日本銀行・1月22日）	変化*
景気基調	景気は、個人消費などに弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている。 先行きについては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、原油価格下落の影響や各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。	→	景気は、緩やかな回復基調を続けている。 先行きについては、景気は緩やかな回復基調を続けていくとみられる。	→
民間消費	消費者マインドに弱さがみられるなかで、底堅い動きとなっている。	→	一部で改善の動きに鈍さがみられるものの、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、全体としては底堅く推移している。	↑
設備投資	おおむね横ばいとなっている。	→	企業収益が改善するなかで、緩やかな増加基調にある。	→
住宅投資	底堅い動きとなっている。	→	駆け込み需要の反動減が続いてきたが、足もとでは下げ止まりつつある。	→
雇用	改善傾向にある。	↑	着実な改善を続けている。	→
生産	持ち直しの動きがみられる。	→	内外需要の緩やかな増加に加え、在庫調整の進捗もあって、持ち直している。	↑
輸出	このところ持ち直しの動きがみられる。	↑	持ち直している。	↑
国内企業物価	緩やかに下落している。	→	国際商品市況の大幅な下落を反映して、3か月前比下落している。	→
消費者物価	横ばいとなっている。	→	消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベースでみて、0%台後半となっている。	→

* 前回からの変化: 上方修正 ↑、下方修正 ↓、据え置き →

[月例経済報告：内閣府](#)

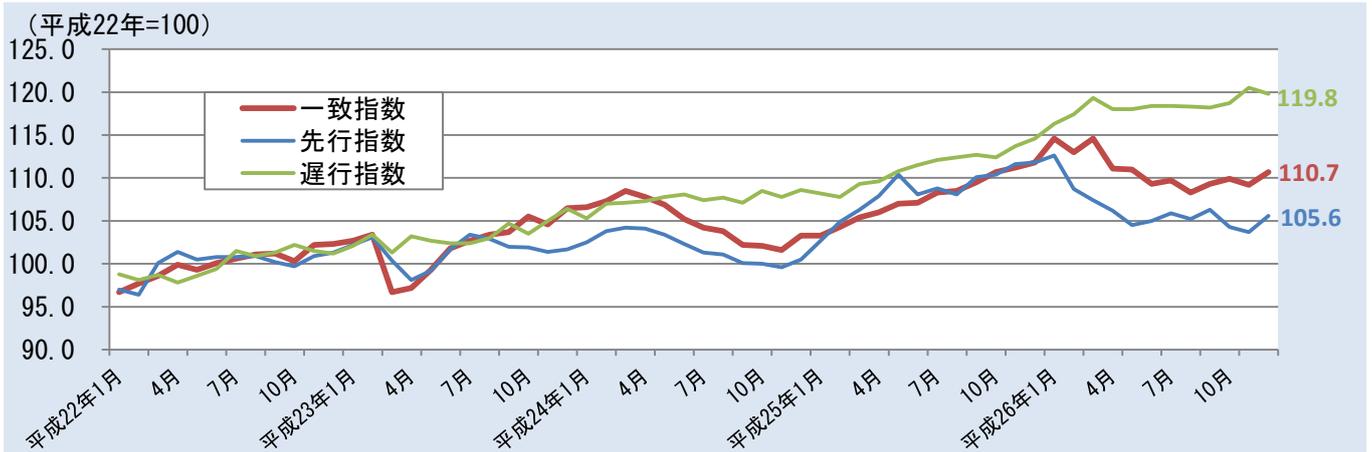
[金融経済月報：日本銀行](#)

● 景気動向指数（平成26年12月）

平成27年12月のCI一致指数(改訂値)は前月より1.5ポイント高い110.7ポイントとなり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。CI先行指数は3ヶ月ぶりに上昇し105.6ポイント、遅行指数は3ヶ月ぶりに低下し119.8ポイントとなった。

景気の基調判断(CI一致指数)は、「改善を示している」に上方修正。判断の引き上げは2013年7月以来、1年5か月ぶり。

・CIの推移



[景気動向指数：内閣府](#)